日本赤十字北海道看護大学学内誌

Viva Kango No.46

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

〒090-0011 北海道北見市曙町664－1 TEL（0157）66-3311 FAX（0157）61-3125
mail to:kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

発行日／2017年10月1日
編集・発行／広報委員会

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
日本赤十字北海道看護大学

日本赤十字 6大学学生交流会

八月二十二日～二十四日にかけて、全国の赤十字系大学の学生が自主的に組織する交流会が行われました。毎年恒例となっている六大学交流会ですが、本年は本学が初めて主催校となりました。

本交流会の目的は①防災意識の向上を図る、②災害医療への関心を高めることができる、③情報・知識の共有を図ることで他大学との交流を深めることです。

開催内容としては、自己紹介後、本学根本教授指導の元、避難所運営ゲーム（DoHUG）を行い、二日目には炊き出し演習を体験しました。その後は旭川に移動し、レクリエーションを行いました。

本学学生も多数参加できましたので、学生達に感想を述べてもらいました。

一年　柿江　咲希

初めて六大学交流会に参加させていただきました。避難所運営ゲーム等で防災について学ぶことができ、防災対策の考えを深める良い機会となりました。また、他大学にも友達もでき、三日間とても充実していました。たくさんの刺激をもらうことができたし、すごく楽しかったです。来年も参加したいです。

一年　鎌田　莉瑚

私は今回、初めて六大学交流会に参加させていただきました。避難所運営ゲーム「DoHUG」や炊き出し演習を通して、自分に何ができるのかを深く考えるきっかけとなり、とても勉強になることばかりでした。また、同じ目標をもつ学生と交流したことで、多くの刺激をもらい、とても充実した三日間になりました。次回もぜひ参加したいです。

一年　大川原　未貴

六大学交流会を通じて、全国に日赤学生の仲間ができ、様々なことを得られ、とても良い思い出となりました。DoHUGでは、北海道ならではの雪害を想定した避難所作り、他地域との気候のギャップにとても驚きました。災害時には複数の問題が考えられる為、それに対応する知識や率先力がとても重要になると実感しました。

一年　齊藤　胡桃

今回はじめて六大学交流会に参加しました。同じ道を目指している全国の大学生との交流は良い経験になりました。一日目のDoHUGはとても活発な話し合いとなり、様々な考えを聞くことができたので、とても勉強になりました。三日間という短い時間でしたが、交流を深めることができました。またこのような機会があれば参加したいと思います。

一年　菅原　綾乃

今回の六大学交流会でたくさんの経験をさせていただきました。例えばハイゼックスで蒸しパンやうどんを作ったり、DoHUGをしたりできました。実際災害が起こった時に、どのような対応をしていけばいいかなどを学ぶことができました。ほかにも六つの大学から来た方とたくさん仲良くできる機会があって楽しかったです。

一年　木村　琴音

六大学交流会では、いろいろな地域の赤十字の看護学生と交流でき、多くのことを学び充実した三日間を過ごすことができました。自分が経験したことのない活動や、体験談を聞き、刺激を受けた場面も多くありました。また、初対面の人や先輩と関わる中でコミュニケーション能力も磨くことができ、参加して本当によかったなと思いました。

一年　広瀬　舞桜

今回の交流会ではたくさんのことを学ばせていただきました。私は人見知りなのでうまく交流できるか不安でしたが、同期のみんなに加え、先輩方の気遣いによって、充実した時間を過ごすことができました。また、人との接し方や、言葉遣い等、人として必要になってくることや、少しの変化に気づき、相手を気遣うこと等、看護師になってから必要になってくることを身をもって体験し、学びました。今回、交流会開催にあたり、ご協力していただいた方々に感謝の気持ちを忘れないとともに、来年の交流会にも参加したいと思っています。

一年　遠藤　百乃

初めての六大学交流会は自分に足りないものが多く見つかったがそれ以上に学んだことも沢山あった。特に印象的なのが一人一人の状態を正確に素早い見極めや協力が必要なＨＵＧゲーム、炊き出し演習、旭山動物園だ。この三日間はとても楽しく充実でき、目標も見つけられた。参加できて本当に感謝だし、来年は成長した自分でもう一度参加したい。

一年　村井　瑠菜

六大学交流会では道外の赤十字学生とたくさん話すことができ、北海道と道外の災害においての問題点が違うなど、交流会に参加しないとわからないことがたくさんありました。また、三日間を共に過ごして、道外の人たちと仲を深めることができたので、赤十字大学に入って本当によかったなと改めて思いました。来年もまた参加したいと思います。

一年　亀渕　茉央

今回の六大学交流会は初めての参加でしたが、三日間でたくさんの人とお話しできたり、仲良くなることができました。グループでＤｏＨＵＧをやることも勉強になったし、炊き出しも初めての経験で知らないことばかりでした。これから先輩方のようにたくさんの経験を積んで、下の学年に知識を伝えられるような立場になりたいなと思いました。

一年　相良　梨予

初めての六大学交流会への参加でしたが、普通の大学生活では出会うことのできない全国の日赤の看護学生と出会い、三日間を共に過ごす中で、災害や日本各地についてなど、たくさんのことを学び、人間関係を作ることができました。この三日間で得たものをこれからの大学生活に生かしていきたいです。ありがとうございました。

三年　五十嵐　愛

今回六大学に三年生ではじめて参加しました。初めてという緊張と三年生という立場で少しの責任感もあり、参加する前は不安でした。しかしどの大学の方もフレンドリーですぐに打ち解けて、後輩も「また参加したい」と言ってくれるほど楽しんでくれました。他大学の特色などを知り、ＤｏＨＵＧも体験できて貴重な時間となりました。

三年　山崎　凌

今回の六大学交流会は例年よりも一日多く開催したため、多くの学びと交流があったと思います。ＤｏＨＵＧでは静岡版のＨＵＧと全く異なるシチュエーションの内容であり、他の大学の学生が知らないような北海道ならではの自然現象に戸惑いながらも、北海道の学生と助け合いながらＨＵＧゲームを進めていきました。根本先生の導入の講義で炊き出しの重要性を学び、二日目の内容では炊き出し演習を行いました。避難所での炊き出しは今回の演習のように行えるとは限りませんが、何らかの形で今後の学習に生かしていければと思います。

三年　大坂　真矢

今回の六大学交流会では主催側の立場をとりながらも、交流会当日は一人の参加者として、他大学の学生と交流を深め、多くの刺激と学びを得た三日間となりました。ＤｏＨＵＧでは北海道に暮らす私自身も難しさを感じ、炊き出しの重要性や看護職という立場だからこその配慮が避難所でも必要なることを学びました。大学紹介の中でも北海道ではできないような国際協力関係の活動が他大学にあり、参加した学生との交流の中で国際看護について考えるきっかけとなったり、生活環境が異なる学生と交流する中で様々な人間性に触れ、今後人を看ていく看護師として視野を広げることもできました。三度目の参加となる交流会でしたが、参加するたびに学びが増え、人間性を高めるきっかけを与えてくれるような素晴らしい機会だと改めて感じています。

今回の開催にあたり、ご協力をいただいた大学の方々、地域の方々、参加してくれた学生のみんなにもこの六大学交流会を無事に成功に導いてくださったことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

新入生歓迎のご挨拶

日本赤十字北海道看護大学
学長　河口　てる子

新入生の皆さん、今年は、全国で台風の大雨や前線の停滞による記録的大雨とたいへんな夏で、北海道でも洪水の被害がでていますが、皆さんの親元はいかがでしたか。保護者の皆様、夏休みに帰ってこられたご子弟の様子はいかがでしたか。

さて、看護は、当分人口の高齢化が続くことから安定した職業とみられており、ご子弟にぜひ手に職をと勧められた親御さんも多いかと思います。たいへん嬉しいことなのですが、ご子弟の「看護の道に進む」の決意、看護への意欲、そして人と接する職業への向き不向きに関しては、いかがでしょうか。本当は他の道に進みたいと思っている学生、この道に進むのが辛い学生もおります。入学してからは多額の奨学金をもらっている学生も多く、看護に進みたくないとは言えない事情もありますが、どうぞ怒らずにご子弟のお気持ちをじっくり聞いてあげてくださいませ。そして、時には撤退する勇気、その選択への支援もお願いしたく存じます。

ご子弟に看護への意欲と人に接することが苦痛でなければ、高いhumanityの理念と確かな実践から培われた「実践知」「技術」を持つ本学での教育は高く評価されておりますので、教職員一同、全力でサポートいたします。学生の皆さんには、専門職として、看護への道を堂々と歩んで行ってほしいと願っています

学年担任の紹介

◎第一学年◎

山崎　弘資

第一学年主担任の臨床医学領域（外科学）の山崎です。現在の四年生が一・二年生時の主担任を務めて以来の担任となります。これからの二年間、情熱にあふれ、学生想いの園田、伊東、種本の三先生と共に学生を指導、見守って参りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

園田　裕子

一年生の皆さん、ご父兄の皆様、平成二十九年度一年生を担当します成人看護学領域講師の園田裕子です。山崎弘資先生を中心に四名が連携し、一年生の学業と生活のサポートを行っていきます。どうぞよろしくお願い致します。四名の担任は、皆さんが学業に集中できる環境づくりと支援をするためいつも見守っています。困った時にはいつでも声をかけてください。

伊東　智美

一年生担任の母性看護学領域の伊東智美です。フレッシュな皆さんから元気をもらっています♡看護を学ぶことは容易なことではないと思いますが、少しずつ皆さんが成長していくことを担任として・先輩として、担任一丸となってサポートしていきたいと思っています。

種本　純一

一年生の皆さん、ご父兄の皆様、担任をさせていただいております基礎看護学領域の種本純一です。一年生の皆さんが本学で充実した学生生活を送れるよう、担任一同、精一杯サポートしていきますので、どうぞよろしくお願い致します。困ったことがあればいつでも相談に来てください。担任として、本学の卒業生として、看護師を目指す皆さんを心から応援しています。

◎第二学年◎

山本　美紀

一年があっという間に過ぎ、一年生になった皆さんの表情が引き締まり、落ち着いた様子に担任としてホッとしているところです。四年間の中で一・二年次の学びの積み重ねが基礎を作り上げます。土台をしっかり踏み固めていく大事な時期です。そして心豊かな経験もたくさん積んで下さい。それが必ず看護実践に活かされます。後期の実習頑張りましょう。

山本　憲志

大学に入学し、早いもので一年半が過ぎましたね。二年生になり、後輩も出来ました。また、専門科目の講義が増えたと思います。半年後には本格的な病院実習が始まりますね。良い医療従事者になれるよう日々の努力を積み重ね、残り二年半の大学生活を悔いの無いよう過ごしましょう！

矢萩　悦啓

英語の授業を担当している矢萩悦啓と申します。学生からよく下の名前を何と読むのかと訊かれます。各自で読み方を考え、当たっているかどうかを確認に来てください。一回で正しく読めた人はこれまで一人います。学生時代は悩み多き時代です。一人で悩まず担任の所に話をしに来てください。話すだけでも楽になるかも知れません。実りある学生時代になることを願っています。

浅野　綾子

二年生の皆さんこんにちは。あっという間に二年生も半分が過ぎ、基礎看護学実習Ⅱ・OSCEも無事に終わりましたね。皆さんの成長した姿を嬉しく拝見していました。これからも大事な授業や実習が続きます。自分の目ざす看護師像に向かって、一歩一歩進んでいきましょうね。応援しています。

◎第三学年◎

西片 久美子

皆さんの本学における目標はどのようなものでしょうか。担任としては、皆さんがその時々でより良い選択をし、自分の目標を達成できるように、ということを願っています。

卒業後のビジョンをもって毎日を送るよう期待しています。そのための支援をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

根本 昌宏

いよいよ後期から領域別実習が始まります。これまでの学びを総動員して患者さんのために丁寧に進めてください。グループ、友人との関係づくりも大切です。私たちもサポートしていきます。看護師として社会人として活躍するための基盤を一年かけてしっかりと築いてください。

八木 絵里子

担任の母性看護学領域の八木絵里子（やつきえりこ）です。三年生の後期からの領域別実習で様々な体験を通して、学内で学習したことを活かして患者さんのために何が必要かを考え、実践を通して自分の看護観を培っていってください。充実した実習となるようにサポートしていこうと思いますので、これから二年間卒業までよろしくお願いします。

前田 陽子

皆さんいよいよ領域別実習が始まりますね。準備は順調に進んでいますか？実習では体調管理、報告連絡相談が重要になります。困ったことがあればいつでも相談して下さい。皆さん一緒に力を合わせて乗り切りましょう。

◎第四学年◎

大倉 美鶴

最近の四年生は、どの学生も以前と違う看護への真摯な姿勢が感じられ、これまでの経験による成長が見えて、とても感慨深くなります。やはり、苦労や努力、そして継続は、人を成長させるものですね。まだまだ先は長いです。全員で国家試験合格というFinal Stage Clearを目指しましょう。

中野 実代子

いよいよ大学生活最後の年になりましたね。どんな勉強でも仕事でも下積みの時期があるといいます。勉強や仕事ができる人のマネをして、その人のフリを続けることで、それがいつか自分のものになります。大学生活がみなさんにとって“キセキ”になるよう応援しています！

村上 智広

領域別看護学実習を終えたばかりですが、既に国家試験に向けて準備を始めていることと思います。これまでの実習で学んできたことも多いに役立ちます。限られた時間を有効に使えるよう、しっかり計画を立てて学習を進めていきましょう。頑張ってください。応援しています。

村林 宏

いよいよ最終学年となりましたね。皆さんと共に四年間を過ごしてきましたが、個性的な学生に恵まれて良かったと思っております。学生生活も残り半年となりましたが、皆さんの持っている力を最大限に活かして、研究・国試に邁進してください。最後は笑顔で卒業できることを願っております。

新任教員・事務職員紹介

成人看護学領域

特任講師 唐澤 千登勢

昨年十月から成人看護学領域を担当している唐澤です。私は昨年まで札幌市に居住していましたが、ここ北見は同じ北海道でも風光明媚な趣が際立っており、秋田県出身の自分は強い親近感を覚えています。この美しい土地で、実学としての看護の魅力を再発見しています。皆さんには主に看護学実習で関わると思います。学び場では、新しいことへの挑戦が安心してできる雰囲気を作りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

成人看護学領域

特任助教 白瀧 美由紀

成人看護学領域担当の白瀧美由紀と申します。私は北見出身なのですが、三十年ほど神奈川県の大学病院で勤務しておりました。温暖な土地から北見に戻って来た感想は、とにかく寒い！の一言ですが、自然が厳しいからこそ北見は美しいと実感しています。学生の皆さんとは成人看護学実習Ⅰ、Ⅱでお目にかかります。実習は大変ですが、経験から得られる学びは貴重で実りが多い学習だと思います。ともに学びながら一緒に成長していきましょう。どうぞよろしくお願いします。

地域・在宅看護学領域

特任助手 渕瀬 恵

皆さん初めまして。在宅看護領域を担当させていただいております渕瀬恵と申します。何かと未熟ではありますが、報告・連絡・相談をしながら頑張りたいと思っております。

私は、北海道出身ですが、道東は未知の世界でした。源泉掛け流し温泉が沢山あって素晴らしい地域だなと思います。心と体を癒やしながら皆さんと一緒に頑張っていきたいと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。

卒業生リターンズ特集 Vol.3

老年看護学領域　助教　藤谷未来

四期生の藤谷です。卒業後は看護師や保健師を経験し、現在は母校で老年看護学領域の助教をしています。

大学時代は、一番前に座り、座学も実習もオールAで態度も良く先生達のお気に入り…ではなく、正反対の不良学生でした。その愚行の数々といったら…あまりにすばらしいのでここでは遠慮しておきます。このように不真面目だったので、実習は本当に大変でした。このようなことにならないよう、何事にも真摯に取り組み、日頃から勉強することを強くおすすめします。

辛く長い実習を乗り越えられたのは仲間のおかげでした。「指導者さん怖いね。」「先生わかってくれない。」と愚痴を言い合い、支え合い、綱渡りの日々を送っていました。そんな私たちもふと気づけば、学生からみると「怖い、わかってくれない人」の立場。仲間達とは十年以上たった今でも連絡を取り合い、お酒を片手に「看護とは」を語ったり、未だに実習の話で盛り上がっています。

皆さんも、共に励まし合い成長しあえる仲間を見つけてください。そして十年くらい経って、「あの時、先生や指導者さんが言っていた意味がやっとわかった。」「わかってないなりに一生懸命やったよね。」と笑い合える日が来ることを願っています。

同窓会

同窓会　会長　亀田愛子

この度、同窓会で大学院を修了される方に卒業式の時に着ていただく、アカデミックガウンを作りました。平成二十八年度の卒業式から着ていただいており、デザインは黒地にオレンジ色のラインが入ったものです。アカデミックガウンは専攻科によって、ラインの色が分かれており、看護学はオレンジ色だそうです。鮮やかなオレンジ色が式場にとても映えていました。大学院の方が皆さん同じものを着て出席されて、スーツや着物とはまた違ったすてきな姿でした。

今後、博士課程修了の方のアカデミックガウンも用意する予定です。博士課程の方のラインの色は、修士課程の方とは違う色で用意する予定になっています。

看護の世界も、専門分野が細分化され、より高度な知識と技術が必要とされる時代となっております。現在、学部で看護を学んでいる皆さんが、将来、自分の好きな分野、得意な分野を深めるために、大学院で学ばれ、修了される際に、アカデミックガウンを着用していただきたいと思っています。

◎客観的臨床能力試験OSCE

「看護と統合と実践Ⅰ」は、基本的看護技術について臨床実習に対応できる実践能力を養うことを目的として、二年次前期に開講しています。そのなかで、客観的臨床能力試験 OSCE：Objective Structured Clinical Examination（オスキー）と略して呼ばれる実技テストを行います。OSCEは、ペーパーテストによる知識の習得に偏らず、臨床の現場で必要となる看護の「技術」、「判断力」、「態度」といった能力を客観的に評価する方法として注目され、本学では看護に必要な実践能力のさらなる向上を目的に導入しています。

OSCEでは、病室に見立てた実習室、模擬患者様といった臨床に近い状況で、より実践的に看護の知識や技術を習得していくことを目指し、バイタルサイン測定や看護援助を約十分間の限られた時間で実施し、模擬患者様と教員からフィードバックを受けます。

本年は二年生一〇八名が七月十九、二十日の二日間に北見市をはじめとする地域の皆様三十四名の模擬患者様としての協力を得て、OSCEを実施しました。

学生は事前にOSCEの課題となる疾患や症状の理解を深めたうえ、実践的なコミュニケーション技法や身体診査技術、看護ケア方法について、これまでに学習した内容を再確認していました。さらに、学生同士で看護師役、患者役となって、患者様に対する説明や態度、看護ケアの実践練習を何度も繰り返し、行っていました。

実際のOSCEでは、かなりの緊張のなかでの実践となり、練習通りにうまくいかなかったり、予想外の対応を受けたりして、悔やむ場面も多かったようです。しかし、OSCE直後の模擬患者さんからのあたたかい評価や励まし、教員による一人一人にあわせた細かなフィードバックを受け、学生は自分自身を冷静に振り返ります。また、評価点だけに注目するのではなく、教員をファシリテーターとしたグループワークにおいてOSCEでの実践を振り返ることによって、自己の成長を実感していました。さらに、学生自らが今もっている看護の「技術」、「判断」、「マナー」の力がどの程度であるかを自覚したうえ、臨床実習に向けた自己の目標や今後の課題を明らかにしていました。

学生は、地域の多くの方々の協力と全教職員の参加サポートのもと、患者様の良き支援者となれるようOSCEに真剣に取り組んでいました。

第十九回 大学祭

第十九回大学祭「It's a nursing world ～笑顔きらめく看護の世界～」が、平成二十九年六月十七日（土）～十八日（日）に開催されました。テーマには、皆様から自然と笑みがこぼれるような大学祭にしたいとの願いが込められており、学生や近隣住民など、二日間で計一、二八二名もの参加をいただき、大変賑やかな大学祭となりました。

学生自治会大学祭実行委員が中心となり、準備の段階から素晴らしいチームワークで取り組みました。模擬店や体験コーナーには、一・二年生の顔ぶれも多く、学生にとって住民とふれあう大切な機会であるのと同時に、看護の学びになったに違いありません。

次年度は、第二十回の節目の年を迎えます。学生や教職員の協力体制で、よりよい大学祭をめざしていきましょう